

暴れ天竜が起こした
天竜川災害写真集

36 災害の悪夢



松川町 間沢川合流点付近 左岸から望む。



"暴れ天竜" 伝説
天竜川災害記録

昭和 36 年 6 月、梅雨前線の停滞から始まった雨が
台風の影響にともない集中豪雨となる

昭和 36 年 6 月、梅雨前線の停滞に伴い 23 日から降り始めた雨は、6 号台風の接近とともに 26 日から集中的な豪雨に変わり、27 日には降雨量がピークに達しました。例えば、飯田市ではこの日 1 日で 325mm の降雨量を記録、同市の 6 月の平均の降雨量が 230mm であることからしてもその雨量の異常さは想像を絶するものでした。



松尾地区と
下流水神橋。



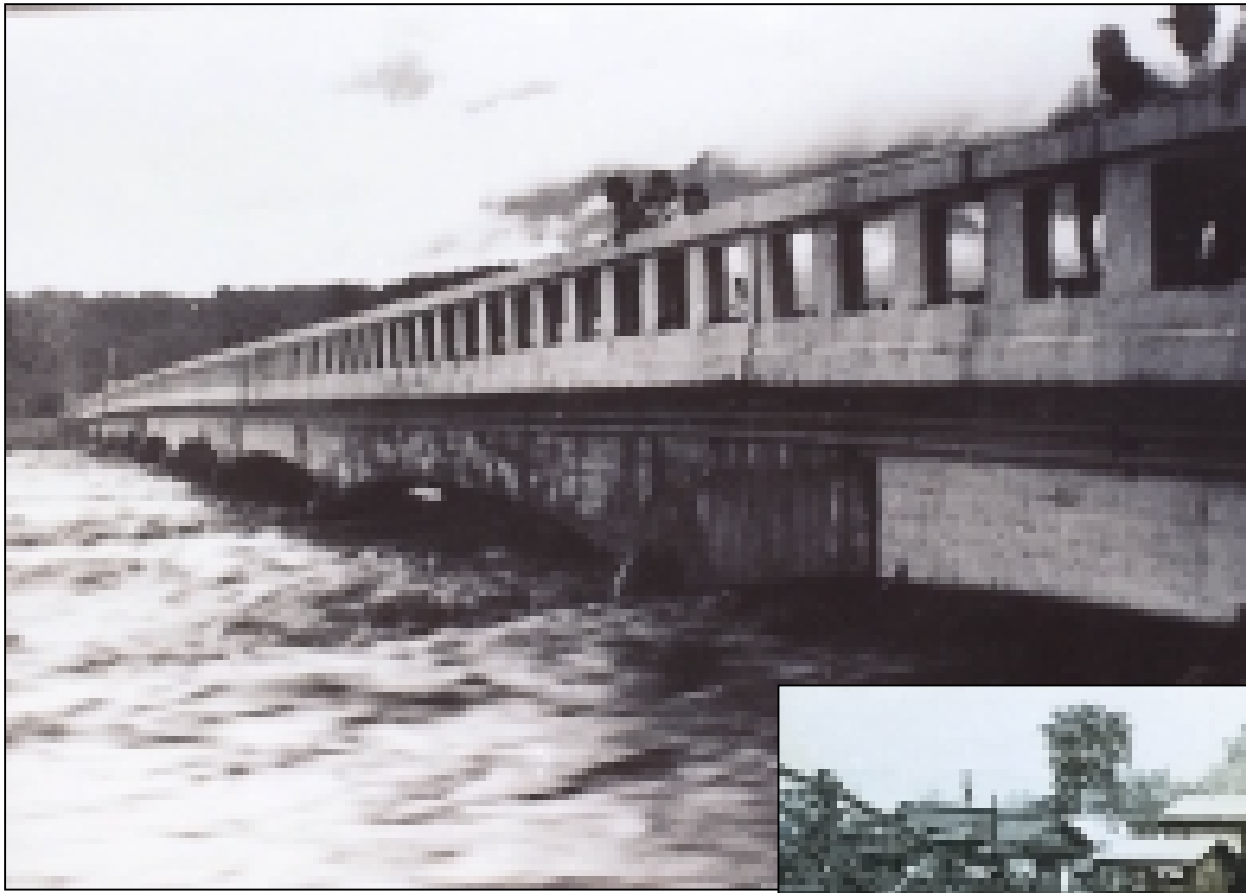
下流より水神橋を望む。



36 災害時の水神橋。



現在の水神橋。



天竜橋



天竜橋より上流。

昭和 36 年



昭和 36 年 6 月 28 日。飯田市時又地先。流出寸前の家屋。



"暴れ天竜" 伝説 天竜川災害記録

この集中豪雨によって大西山が大崩落した

この集中豪雨によって天竜川とその支川は多量の土砂を流下させ、各所でがけ崩れ、堤防の決壊が続出し、多くの生命や財産、田畑が奪い去られました。なかでも、下伊那群大鹿村では29日に大西山が大崩落し、約320万立方メートルにもおよぶ土砂が一部の集落を襲い、死者42名という大災害を引き起こしました。

大鹿村鹿塩川現大鹿中学校付近。



大鹿村 鹿塩川 塩川合流点付近。
合流点下流から望む。



田沢川 高森町診療所付近。



大鹿村鹿塩川 元北川分校付近、下流から望む。

小渋川





"暴れ天竜" 伝説
天竜川災害記録

天竜川とその支川流域の堤防が決壊

各所の土砂災害とそれによる大量の流出土砂のため、本川の合流点付近で支川の河積がせばまって隘水し、それが本川堤防を裏側から破壊したり、下流部では河床が一時的に上がって堤防を越流し、堤内地に大災害をもたらすというような災害が顕著でした。



飯田市上郷町野底川下流氾濫状況。上流から望む。



松川町 間沢川合流点付近。左岸上流から望む。



高森町 大島川合流点付近。
左岸から望む。



大鹿村鹿塩川、
塩川合流地点付
近。鹿塩川上流
から望む。

飯田市 弁天橋付近。
右岸下流から望む。

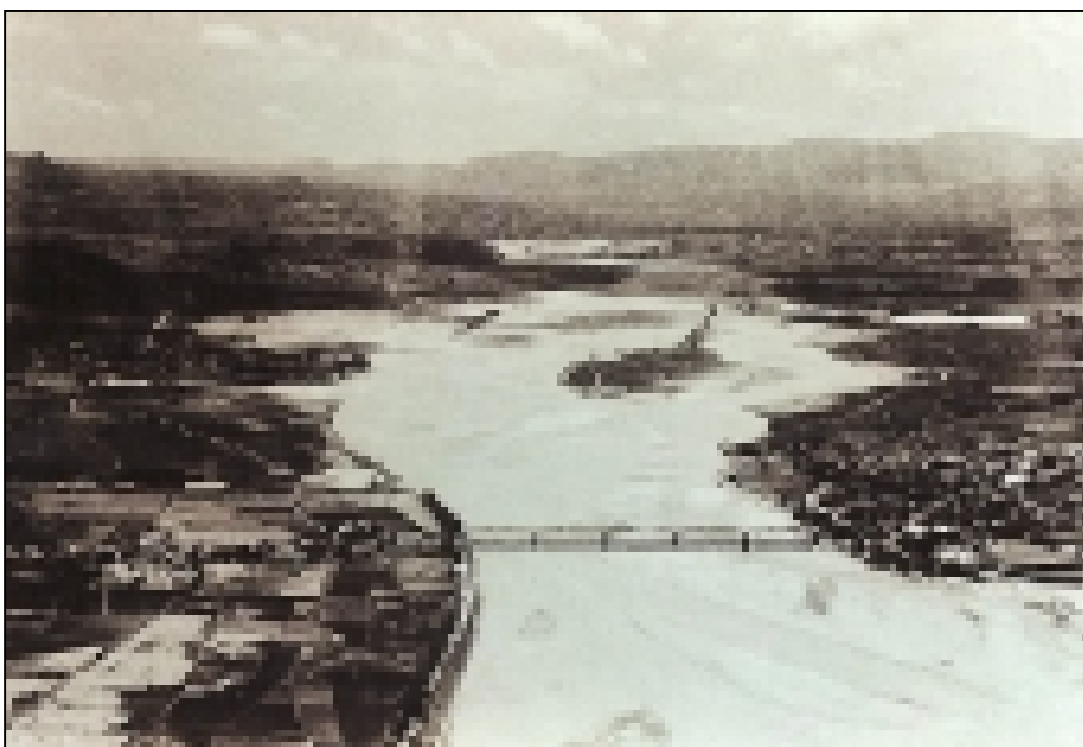




"暴れ天竜" 伝説 天竜川災害記録

河川の氾濫はとても広い範囲で起こった

人的被害が多かったのは大鹿村、中川村、飯田市等でしたが、
河川の氾濫は美峰川沿川、及び太田切川の合流点より下流では全川に及びました。



昭和 36 年 6 月、梅雨前線豪雨による出水で破堤・浸水した状況。下流から上流を望む。右岸が現在の高森町、左岸が豊丘村。

高森町明神橋付近。



高森町下市田地区豊丘村伴野付近。左岸上流から望む。



飯田市川路地先。上流から望む。



"暴れ天竜" 伝説 天竜川災害記録

未曾有な洪水規模・流出土砂の規模と被害

洪水規模、および、流出土砂の規模において未曾有のもので、その被害も甚大で死者・行方不明者約 130 名全壊流出家屋約 900 戸、一般および土木被害額は実に 337 億円に達しました。天竜川本川の被堤ヶ所は 15 ヶ所、4,165mに及んでいます。一般被害の概況は一覧表のようになっています。



天竜川 山吹地区

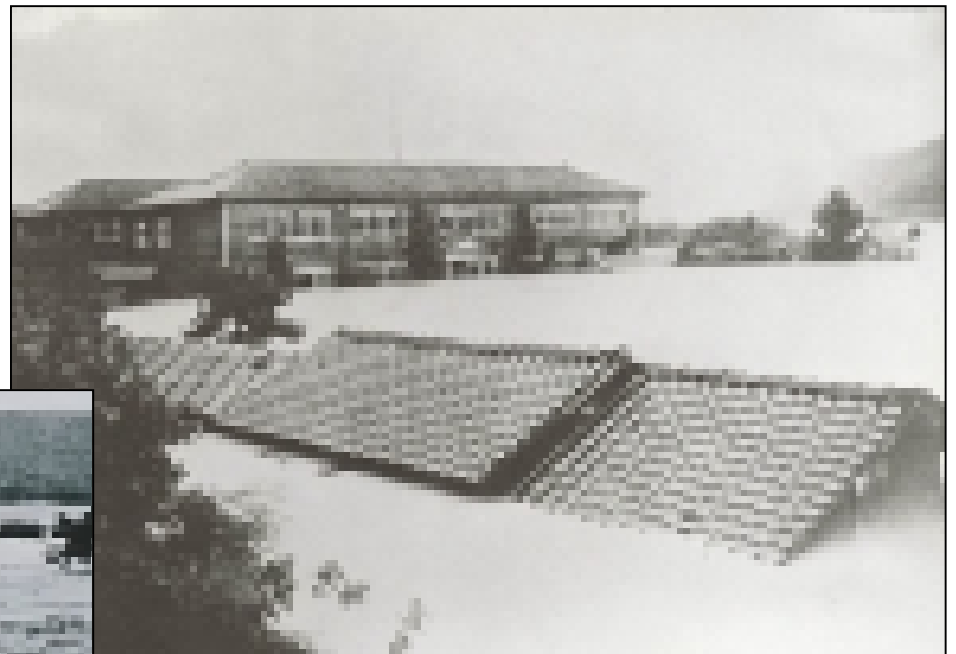


下平駅付近



竜江

下平駅付近



川路小学校浸水

伊那谷の36年災害における一般被害概況

